

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立今津中学校

令和 7 年 4 月

大阪市立今津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

【学校教育目標】

○生徒の願いや実態を把握し、「確かな学力」と「豊かな人間性」を育て、自立した個人として「力強く生きる力」を培う教育活動を推進する。

【めざす学校像】

○学校全体の人権意識を高め、生徒・教職員が安心して学習活動・教育活動に専念できる落ち着いた学校づくり

○生徒・教職員一人ひとりを大切にできる学校づくり

○生徒一人ひとりが日々の学校生活に充実感を持ち、将来に夢と希望を抱く教育の推進

○地域社会の一員として、地域・保護者から信頼される学校づくり

【学校努力目標】

○自分を大切に、友達を大切にしよう

○来たときよりも美しく

○5分前行動をしよう

○すすんで元気なあいさつをしよう

現状と課題

○【学校教育目標】である、生徒の願いや実態を把握し、「確かな学力」と「豊かな人間性」を育て、自立した個人として「力強く生きる力」を培う教育活動を推進している。

○現在は、生徒が日々の授業、行事などの教育活動に前向きな姿勢で取り組んでいる。また、校内環境を整えながら生徒が安心して教育活動に専念できている。

○学力調査の結果では、令和5・6年度の3年生のチャレンジテストで大阪府の平均点を4教科で上回った。1・2年生は上回る教科もあるが総体的には全国や大阪府の平均点と同値もしくはやや下回る状況である。また、アンケートの結果として、自分の考えや意見を伝える、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりする項目の数値が低い傾向にある。

○体力の向上においては、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果で、合計点で全国平均を下回っている状態が続いている。今後、生徒の運動に取り組む意欲を高めるとともに、保健体育の授業や体育的活動の工夫を図り、全ての学年の生徒の体力向上につなげていかなければならない。

○健康の保持増進においては、感染症拡大防止に取組を継続して推進している。また、保健・食育活動においても、生徒自らが自主的な活動となるように「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」や「朝食フォトコンテスト」の取組を通して、健康的な生活習慣を身につけるように取り組んでいる。今後も生徒自らが規則正しい生活を心がけ、食事・睡眠・運動・学習のバランスを意識した生活習慣の確立に向けて、さらなる取組を進めていかなければならない。

○ICT 校内環境の整備を行うとともに、学習用端末の持ち帰りをできるようにし、有効活用できる取組を進め、家庭との双方向通信、オンライン授業の実施、デジタルドリルを活用し、授業において教職員や生徒がICT機器を活用する場面を増やしてきた。

●不登校生徒（年間 30 日以上欠席）の比率は前年度とほぼ同値であったが、不登校生徒に含まれない長期欠席生徒を合わせた比率は 10%を超えている。いじめと認知される事案とともに、その減少と解消に向けた校内での取組だけでなく、関係諸機関との連携を進めながら、継続して取り組んでいかなければならない。

●学力調査や校内テストにおける下位層の生徒が各学年に一定数存在するため、継続した授業力向上とともに教材や指導方法を工夫した取組を通じて、基礎学力の定着を図る必要がある。

●教職員が、これまで以上に ICT 機器を有効活用できるように環境を整備し、授業や取組で生徒の学力向上につなげていく必要がある。

●保健体育の授業や学校行事、部活動等の体育的活動を通して、運動することの楽しさを感じることができ、仲間とともに活動することにより体力の向上と健康の保持増進に取り組む必要がある。

●教員の働き方改革を進めるため、会議資料や学校評価アンケートのデジタル化、自動採点システムの活用とアンケート集計のデジタル化を進め、継続的に取り組む必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

◇令和 4 年度～令和 7 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）における「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を 80%以上にする。

◇令和 7 年度末の校内調査において、令和 3 年度の不登校生徒の改善の割合より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

◇令和 7 年度の中学校チャレンジテストにおける各学年各教科における平均点を府の平均点以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）において「学校の授業は分かりやすい」と答える生徒の割合を 70%以上にする。

◇令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計平均得点を全国平均以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）において「規則正しい生活を心がけている」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）の「学習用端末やデジタル教材を活用して学習している」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、80%以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（保護者）の「学校は家庭・地域との連携を密にしている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、70%以上にする。

◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、30%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ◇年度末の校内調査における「学校行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度（78.0％）以上にする。
- ◇年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の在籍比率を前年度（6.21％）より減少させる。
- ◇年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 78.0％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◇中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ◇年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度（31％）より増加させる。
- ◇大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- ◇全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ◇授業日において、生徒の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50％以上にする。
- ◇教員の生徒の ICT 活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を 84.3％以上にする。
- ◇「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を前年度（42.59％）より高くする。
- ◇令和 7 年度末の学校評価アンケート（生徒）の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、前年度（13％）以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

最重要目標 1 【安全・安心な教育の推進】

最重要目標 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

最重要目標 3 【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立今津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ◇校内調査における「学校行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度（78.0％）以上にする。 ◇校内調査における、前年度不登校生徒の在籍比率を前年度（7.81％）より減少させる。 ◇校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度（78.0％）以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 毎月の初めに各学級でいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見と早期対応を行う。自身のことだけでなく、周りで起こっているいじめも申告させることで、いじめの抑制効果も期待する。	
指標 ○各学年での毎月のいじめの件数を調査し、解消した割合を高める。 ○校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度（78.0％）以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 週に1回不登校生徒について情報交換を行い、登校に向けて個に応じた継続的対策を行い、保護者や関係諸機関とも連携して改善を図る。	
指標 ○前年度よりも不登校生人数の割合を減らし、改善の割合（11.0％）の数値をあげる。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 人権に関する学習を通して、豊かな人権感覚と生命を尊重する意識を育て、人権尊重の精神と実践力を養う集団を育成する。	
指標 ○校内調査における「私は、命や人権の尊さについて考えたことがある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度（84％）以上にする。 ○校内調査における「私は、まわりの人に思いやりをもって接している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度（89％）以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立今津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>◇中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>◇年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度(31%)より3%増加させる。</p> <p>◇大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p>◇全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より1ポイント向上させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICT機器を活用し、生徒の実態に応じた指導方法の工夫・改善を行い、基礎・基本の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○学校評価アンケート(生徒)において「学校の授業は分かりやすい」と肯定的に答える生徒の割合を前年度の81%以上にする。(オンライン授業も含め)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>班学習の中で、多様な言語活動を学習に取り入れ、仲間とともに学びあう授業づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(31%)以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>5教科において、それぞれの教科会でチャレンジテストの結果の分析と対策を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける各学年各教科における平均点を府の平均点以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>各学年でC-N e tを活用したT Tの授業を行い、生徒の英語学習への意欲を高める。</p> <hr/>	

<p>指標</p> <p>○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 55% 以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>基礎体力の向上を図り、運動に興味・関心をもたせるため、保健体育の授業や体育的活動を通じて、自主的、意欲的に取り組めるように工夫する。</p>	
<p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度 (48%) 以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>年間を通じて健康の管理の指導、取り組みを実施する。また、長期休業前に健康指導を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「私は、ふだんから手洗いを心がけている」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度 (92%) 以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「私は、規則正しい生活を心がけている」に対して、肯定的に答える生徒の割合を前年度 (87%) 以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立今津中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ◇授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ◇第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度2月(42.19%)より高くする。 ◇令和7年度末の学校評価アンケート(生徒)の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、前年度(13%)以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【{基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進}】 校内研修などを通じて、教職員のICT環境に関する理解を深めていく。そして、研究授業などの機会を利用して、1人1台学習用端末の活用の頻度を高めていく。	
指標 ○学校評価アンケート(生徒)において「学習用端末やデジタル教材を活用して学習している」と肯定的に答える生徒の割合を、前年度(56%)以上にする。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 スクールサポートスタッフや部活動指導員を活用した取組を進め、教職員の時間外勤務時間の改善を行う。	
指標 ○毎月の時間外勤務の時間数が60時間を超える教職員の人数を、前年度平均(14人)以下にする。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 生徒が図書館に来館しやすいような環境を整備する。また、生徒に図書に関する情報を積極的に発信していく。	
指標 ○年度末の学校評価アンケート(生徒)の「図書室をよく利用する」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度(13%)以上にする。	
取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域・保護者ができる限り行事に参加できるように情報発信、企画・運営を心掛ける。	
指標 ○年度末の学校評価アンケート(保護者)の「学校は家庭・地域との連携を密にとってている」の項目について、肯定的に答える割合を前年度(72%)以上にする。 ○年度末の学校評価アンケート(保護者)の「学校のホームページをよく見ている」の項目について、肯定的に答える割合を前年度(45%)以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点